



ノーマン・ロックウェル『待ちきれないなあ!』 1962年 油彩、キャンパス  
Licensed by Norman Rockwell Licensing, Niles, IL



ケヴィン・リヴォーリ『戦争へ』 2004年  
Photo ©Kevin Rivoli

突然ですが、みなさんは「アメリカ」と聞いて、何を連想しますか？  
広大な自然、多民族国家、自由の国、大量消費、銃、……アメリカっぽい」という何かしらのイメージをお持ちではないかと思えます。  
今回の展覧会で紹介するノーマン・ロックウェル(1894~1978)は、そんなアメリカを代表する画家でありイラストレーターです。彼が描いたのは、特別な世界ではなく、アメリカの普通の人々の、普通の生活だったと言われています。しかし、そのドラマティックな作画を「理想化された世界を描いている」と、このような世界は存在しない

のではと批評する声もありました。ロックウェルの描く世界が、特別なものではなく、身の回りにあるものだという事を示したのが、今回の展覧会で彼の作品と対になって展示される写真を撮影した写真家ケヴィン・リヴォーリ(1961~)です。彼はロックウェルに触発されながら、写真という媒体をとおして自身のアメリカのイメージを浮き彫りにしました。会場で、ロックウェルの絵画作品と、リヴォーリの写真を一緒に見ていただけると、確かに共通するものがあるように感じられます。では、その感覚をもたらしめるのは何でしょうか。

だれにでも、ふたりのような作品が作りだせるわけではありません。ロックウェルには、卓越した描写力があります。ひとの姿形をそのままうまく描きだすことは、努力すればある程度できるのかもしれませんが、彼はそれ以上に、家族や友達、恋人といった人々のつながりを描き出すことに成功しています。同じようにリヴォーリの写真の中にも、人々のつながりが瞬時にとらえられており、彼自身の長年の経験と努力のたまものといえます。二人に共通する感覚のヒントは、人というテーマにあるようです。

## ノーマン・ロックウェル展 In Search of Norman Rockwell's America

2010年9月18日(土)~11月7日(日)

開館時間 / 午前9時30分から午後5時まで  
(入館は午後4時30分まで)

休館日 / 毎週月曜日(祝日は開館、翌日休館)

主催 / 郡山市立美術館

後援 / アメリカ大使館

協力 / 日本航空、津田塾大学

企画協力 / 産経新聞社、アプトインターナショナル

観覧料 / 一般900(720)円 高校・大学生500(400)円

※( )内は20名以上の団体料金

中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料